

ロナルド・クライン  
1925-2006

アメリカのデザイナー/グラフィック  
アーティスト、ロナルド・クラインが  
手がけたフォークウェイズ・レコードの  
ジャケットデザイン 1951-1981

2011年1月17日-2月8日  
GALLERY 5610  
東京都港区南青山5-6-10

**FOLKWAYS RECORDS STEREO FSS 6301**

**HIGHLIGHTS OF**



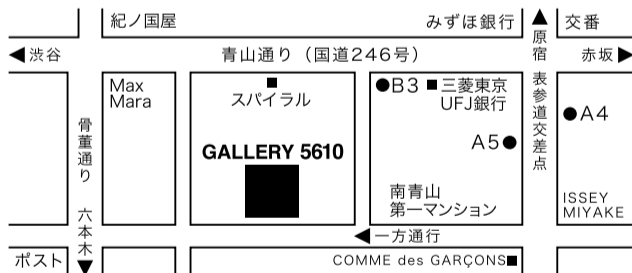
Cover design by Ronald Clyne

## オープニングパーティー

### 2011年1月17日

### 17:00-19:00

## 監修/ジョン・ニクソン、 ステファン・ブラム、ウォレン・テイラー



「ひと目見ただけで中身がわかる、レコードジャケットとはそういったものだ。細部をあこれ見る必要はない。一瞬にして、そのレコードが丸ごとわからなければならぬ。私はどこかの事務所に通わなくても仕事ができるよう心がけてきたので自由だった。アートディレクターをいちいち相手にしないでいいからね。私は、自分が面白いと思うものをただ追求したかったのだ。」

ーロナルド・クライン、2005年のインタビューにて。

ロナルド・クライン(1925-2006)は、ニューヨークのさまざまな出版社の本の表紙を担当するフリーのグラフィックデザイナーでした。クラインは、1951年から1981年にかけて、表紙デザインの仕事と並行して、フォークウェイズ・レコードのLPレコードのジャケットデザインも担当しました。この独自の道を歩むユニークなレコード会社が、30年間に発売した2,000枚のレコードのうち、500枚がクラインの手によるものです。フォークウェイズ・レコードのレコードジャケットは、アーヴィン・ローゼンハウス、デヴィッド・ストーン・マーティン、クレイグ・ミアロップをはじめ、多くのグラフィックデザイナーが担当していましたが、そのトレードマーク的なデザインとスタイルを代表するようになったのは、クラインの手がけたレコードジャケットでした。

フォークウェイズ・レコードは、アメリカからニューギニアにいたるまで、人間の文化を作り上げている世界中の音や音楽を記録し、後世に残すという壮大な展望を持ったモーリス・アッシュによって設立され、その方針のもとに運営されました。フォークから始まり、各国の伝統音楽や現代音楽、話し言葉の記録や、民族音楽の現地録音にいたるまで、その音源の対象を広げていったのです。視覚的にも、フォークウェイズ・レコードのジャケットデザインは、他の商業ベースのレコード会社のものとはずいぶん異なっていました。つや消しの黒の厚いボール紙の上に絹目紙を貼り付け、2色刷りの印刷を施すという独特なもので、ジャケットにはいつも細い黒の縁取りがされていました。

レコードジャケットのデザインは、録音された音と一体化していなければならないというのがアッシュの考えでした。それさえ押さえれば、アッシュは、デザイナーたちがこれだと感じたものを思うままに表現できるよう自由を与え、干渉しませんでした。1948年から1986年までの38年間、ほぼ毎週1枚のペースで膨大な数のLPレコードをリリースし続けたアッシュの業績は、ひとりの人間が一生涯にどれだけのことをなし得るかの証といえるでしょう。アッシュの考えは、決して企業のものではありませんでした。広告代理店を通さずに、フリーの非凡なアーティストたちと共同で、ほんの一握りのスタッフが作り上げていくという、極めて個人的な手段をとったのです。

入念に考えられたクラインのタイポグラフィ、レイアウト、イメージは、そのシンプルさと美しさにおいて際立っています。「好きな仕事を、手早く、効果的に出来る…最高だね!」自らの簡潔で無駄をそぎ落としたアプローチを評して、クラインはこのように言っています。彼がデザインしたレコードは、民族音楽から実験音楽までと実に幅広く多様ですが、それこそがまさに、フォークウェイズ・レコードの懐の深さを体現したものだといえるでしょう。今回の展示作品には、「Indeterminacy (不確定性)」も含まれていますが、これは、ジョン・ケージが語り、デヴィッド・チューダーが音楽をつけたものです。また、メキシコの村々で演奏されている伝統的な音楽を録音したヘンリエッタ・アーチェンコの「Indian Music of Mexico (メキシコ先住民の音楽)」、メンフィス・スリムの「The Real Boogie (これぞブギウギ)」、ビート・シーガラの「Folk Songs For Young People (若者のためのフォークソング)」もあります。アッシュから人物写真を提供された場合は別として、クラインは、ニューヨーク公共図書館や国立公文書館に通って、ジャケットデザインのイメージを求めました。

クラインは、レコードそれぞれにふさわしい多様な書体を用いてきました。また、彼のジャケットデザインを見ていくと、デザインの典型的手法が網羅されていることがわかります。たとえば、全面モノトーンの背景に、イメージをひとつ大きくのせ、テキストは白または黒を用いたもの、あるいは、全体に幾何学的で、テキストとイメージが別々に仕切られて構成されているスタイルのものもあります。その場合、テキストは、色帯の上に印刷され、モノクロ写真と並置されています。かと思えば、写真はなく、タイポグラフィ自体がひとつのイメージになっているジャケットもあります。

クラインのデザインの特徴が最もよく表れているのが、世界のジャズをフィーチャーしたシリーズでしょう。全面を単色で彩色し、その上に長体をかけたレタリングを施したジャケットからはモダンな感覚が伝わってきます。もうひとつ特徴がよく表れているのが、メルボルンでの最初の展覧会用ポスターに使われた「The Songs of Mark Spoelstra (マーク・スポルストラの歌)」の大胆でスタイリッシュなデザインでしょう。ここでは、縦S字形の黄色い帯によって、テキストとモノクロ写真のイメージが分割されています。これらのデザインに顕著な抽象的構成を考えると、クラインが、シンプルなデザイン、色、フォルムから構成されているニューギニア・アートのコレクターだということも、納得できるのではないのでしょうか。

会場には、ロナルド・クラインがデザインした約100点のレコードジャケットが展示されます。本展覧会の目的は、ロナルド・クラインがフォークウェイズ・レコードの仕事を通して、アメリカにおけるモダニズムのグラフィックデザイン、ならびに文化史に果たした役割の大きさについて、皆様にご紹介することです。

ジョン・ニクソン  
2007年1月

#### 参考文献

Seeing The World Of Sound: The Cover Art Of Folkways Records (Catalogue, Fine Arts Building Gallery, University Of Alberta, Canada 2005)

Peter D Goldsmith, Making Peoples Music: Moe Asch and Folkways Records (Smithsonian Institution Press, Washington USA and London UK, 1998)

Da Sonneborn, In Memoriam: Ronald Clyne 1925-2006 (Smithsonian Folkways Recordings website 2006)

Ronald Clyne: Interview Video 2005 (Smithsonian Folkways Recording website 2006)

#### 謝辞

下記の方々より多大なるご協力を賜りました。ここに厚く御礼申し上げます。  
Ateah Sonneborn, Assistant Director Smithsonian Folkways Recordings, Washington USA; Mark Gustafson, Smithsonian Folkways Recordings; Stephanie Smith, Assistant Archivist Center for Folklife and Cultural Heritage; Lorna Arndt, Project Manager Folkwaysalive!, University of Alberta, Canada in Partnership with Smithsonian Folkways Recordings; Kyuichiro Kono, Director Gallery 5610; Kiyonori Muroga, Editor IDEA Magazine; Andrew Wright Hurley; Matt Hinkley; Yukiko Oya, Sakura Nomiyama, Tara Nangia, Carla McKee, Tobias Titz, Sue Cramer, Anna Ephraim & Maeva Harmony.

今回展示されているレコードの全てはジョン・ニクソン、ウォレン・テイラー、ステファン・ブラム、アンドリュー・ハーレイ、クリス・ジョンソンのコレクションです。

#### これまでの展覧会

2007年3月 The Narrows オーストラリア、メルボルン | www.thenarrows.org  
2008年9月 Artspace ニューゼaland、オークランド | www.artspace.org.nz